



「梅雨」といえば、曇天や雨がしとしと降り続くといったイメージを持っているのは私だけでしょうか？現在は、雨が降れば豪雨で各所に甚大な被害をもたらし、梅雨の晴れ間といえば35℃越えの猛暑日となる。いったい「この頃の梅雨」はどうなってしまったのでしょうかね。

また私たちが子供のころは35℃といった体温に近いような暑さではなく窓や戸を開け、風通しを良くして打ち水でもすれば十分にしのげる暑さだったように思います。

今年もまた病院の庭のクマゼミが元気な季節がやってきました。蝉の声に負けず、これからの暑い夏を乗り切りましょう。



## 腑

「腑に落ちる」あるいは「腑に落ちない」といった言葉を聞いたことがあると思いますが、これはどういった感じのことなんでしょうか？辞典で調べてみると「腑に落ちる」は「納得する、理解する」と説明されています。確かに他人の話を聞いているとなぜかスーッと自分の中に入ってきて、その人の言いたいことや思いが伝わってくる時があります。こういうことはだれかのお話ばかりでなく、仕事において上司から指示や命令を受けるときもそうです。その指示、命令が腑に落ちると上司にとっても自分にとっても満足できる結果となって返ってきます。

一方で、同じことを複数の人に伝えても腑に落ちる人とそうでない人が出てくるのはなぜでしょうか。「腑」とは内蔵、はらわた、こころといったような意味があるそうで、聞こえてくる言葉だけを理解しようとしている人と、何を言っているのかを理解しようとしている人にその差が生じるのかもしれない。

そしてもう一つは「理(ことわり)」です。「理」とは物事の条理、筋道です。自分の中の「理」が表に先立って出てしまうときなどにこの差が出てくるのでしょうか？病院における「理」は「病院理念」であり「運営方針」です。企業に属するということは、その企業の理念が「理」で、最優先されなければならないのでしょうかね。



今回は、朝礼とは別に自分が担当させていただきました。「そんなことあるかあ」という方もいらっしゃると思いますがどうかご容赦頂きたく思います。 = 浦田 =

## 病院掲示板

= 看護部 =

7月6日をもって看護学生の実習が終了しました。実習生のみなさん、お疲れ様でした。何かと不生き届のところがありご迷惑をおかけしましたが、精神科を少しでも理解していただけたらと思います。

和歌山看護専門学校の先生方、そして実習担当の先生にはこの場をお借りして、お礼申し上げます。 看護部長 庵尾

## 心理教育のお知らせ

心理教育プログラムの担当の豊田です。

統合失調症に関して“病気の特徴”についてお話をさせて頂いております。



統合失調症は約100人に1人が罹患する脳の病気で、それほど珍しい病気ではありません。

患者さんの脳内では、ドーパミン、セロトニン、ノルアドレナリン等の脳内伝達物質のバランスが崩れており、それによって様々な症状(妄想、幻覚、幻聴など)が顕在化しています。治療としては、それらの伝達物質のバランスを整え、それに伴う症状を抑える目的で抗精神病薬が処方されるのですが、患者さんによっては、症状の改善に伴って通院を止めてしまったり、服薬を自己中断してしまい、病状が再度悪化して入院に至るケースが時々見られます。

病気の特徴について理解を深め、外来通院や抗精神病薬の重要性を認識して頂き、できる限り病状の悪化や再発を防ぐために、今後も心理教育を継続していきたいと考えております。どうぞ御協力のほど宜しくお願い致します。

次回は菅野看護師と堀内看護師から②薬の必要性についての記事を掲載します。

= 編集後記 =

いつも各部長がスピーチをしてくれている朝礼ですが、今回は私が代わりに書かせていただきましたが、なかなか自分で文章を考えて書くのは難しく、七転八倒、四苦八苦でした。

本来「田村病院ニュース」は八部が請け負っていたものでございますが、ひょんなことから八部長からこちらにキラーパスが届きましてつい受け取ってしまったところ、記録があるだけでも7年とないました。

わたくしといたしましてはどうにも臍に落ちないところでございます。

= くらた =

